

こもる 市議会だより

9月定例会

No. **181**
令和元.11.7



「池の前卓球サークル」の皆さん（御影区）

平成30年度 決算を認定

主な内容

- 9月定例会の概要 …………… 2～3ページ
- 常任委員会報告 …………… 4～6ページ
- 一般質問（代表質問5名、個人質問12名）
…………… 7～17ページ
- 次回定例会のお知らせ …………… 17ページ
- 「議会とかたる会」報告 …………… 18～19ページ
- ぼいす（池の前卓球サークル）
傍聴席・編集後記 …………… 20ページ

平成30年度決算を認定

財源の確保は依然厳しく、選択と集中の線引きをし続ける努力が必要

定例会の概要

期間…8月26日から9月25日まで（31日間）
 議案…平成30年度決算ほか全36議案
 結果…すべて認定、可決、同意

平成30年度決算の概要

一般会計の歳入総額は176億1千69万円で前年度比11・5%の減、歳出総額は168億960万円で前年度比13・0%の減となりました。歳入歳出の差引額については、次頁で説明します。

因について市側から説明があり、あわせて示された「改善策」を着実に実行していくことが報告されました。

一時的な未達成で想定範囲内であるとはいえ、健全な財政運営が行われるよう、今後も注視していきます。

財政健全化指標の一つとなる実質公債費比率は、普通交付税などの減少の結果、前年度比0・8ポイント低下の8・0%で概ね良好な水準を維持することができました。しかしながら、財政規律を確保するために設定している3つの財政目標のうち「市債残高」の項目は目標を達成できませんでしたが、定例会初日の本会議に先立ち行われた議員全員協議会では、この原

（※1）実質公債費比率は、地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさをその地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。国で示す基準（早期健全化基準）は25%で、これを下回るほど健全な自治体運営といえます。

任期満了に伴う
 人事案件の同意

●人権擁護委員候補者の
 推薦
 丸山直子 氏（耳取）

任期は令和2年1月1日
 から令和4年12月31日
 までの3年間です。

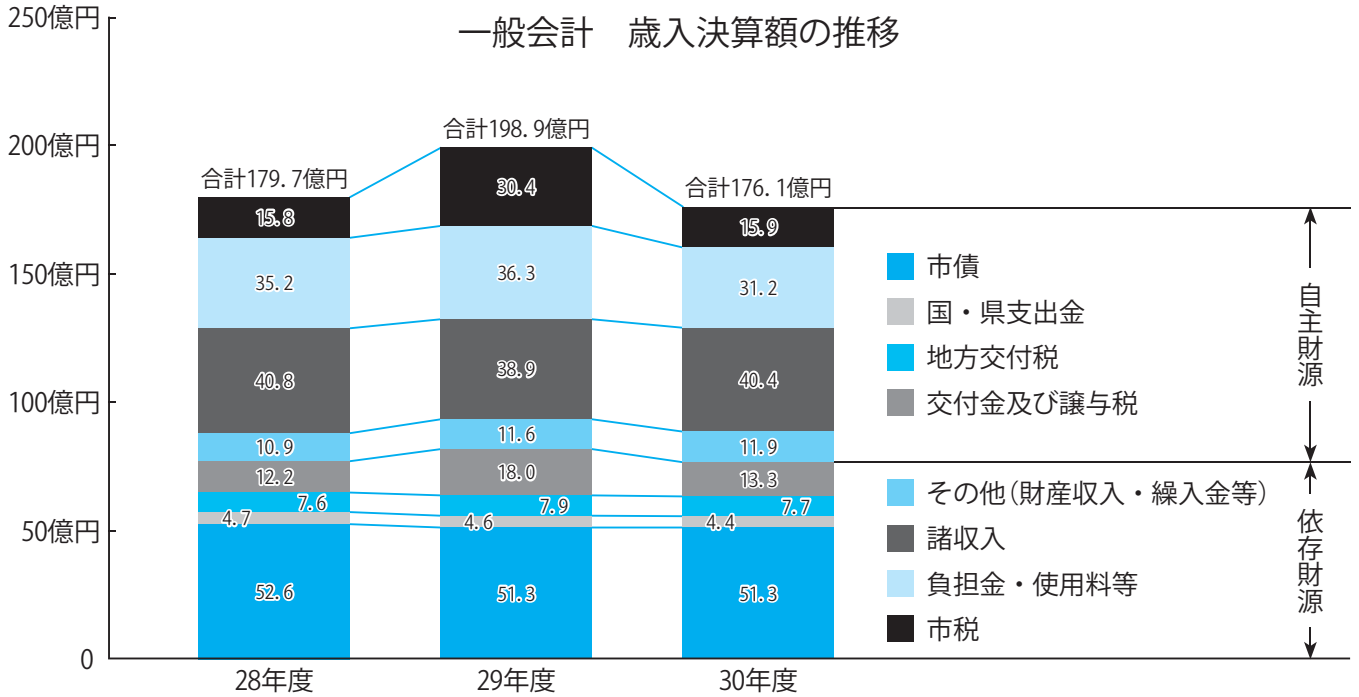
政策別の支出状況（市民一人当たり 396,789円の支出）

子育て・教育 30億3,485万円 一人当たり 71,637円 （前年度比 2,474円増） 	環境 15億8,197万円 一人当たり 37,342円 （前年度比 ▲1,170円減） 	健康・福祉 47億8,547万円 一人当たり 112,961円 （前年度比 ▲67,923円減） 
産業・交流 19億185万円 一人当たり 44,893円 （前年度比 9,747円増） 	生活基盤整備 19億8,598万円 一人当たり 46,879円 （前年度比 4,192円増） 	協働・行政経営 35億1,947万円 一人当たり 83,077円 （前年度比 1,053円増） 
（内）借入金返済 15億5,970万円 一人当たり 36,817円（前年度比▲1,920円減）		

人口42,364人で計算（令和元年10月1日現在外国籍住民を含む）

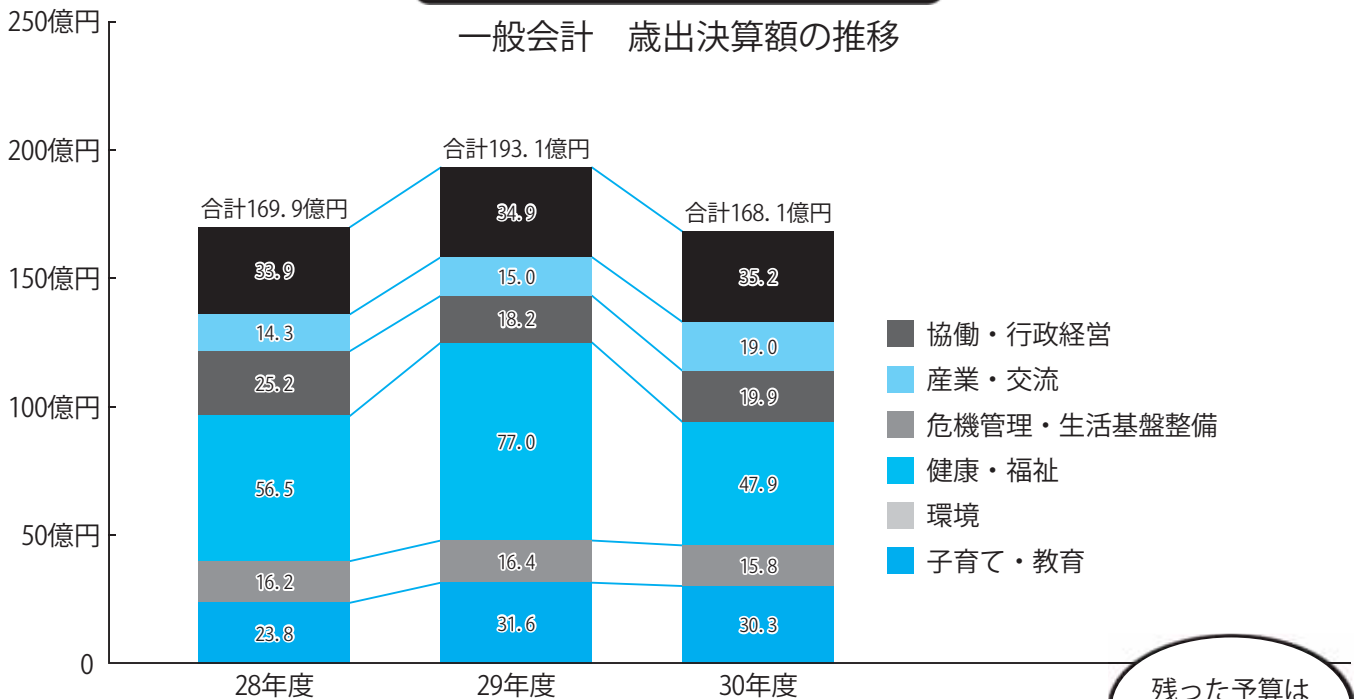
歳入総額 176億1,069万円

一般会計 歳入決算額の推移



歳出総額 168億960万円

一般会計 歳出決算額の推移



残った予算はどうするの？

●浅間南麓こもろ医療センター整備に伴う補助金支出（平成28年度：2億6,186万円、平成29年度：27億3,814万円）が前年度で終了したため歳出総額は減少しましたが、複合型中心拠点誘導施設などの大型事業が控えるため、今後も財政規模の縮小は簡単ではありません。

一般会計歳入歳出差引額
8億108万円の内訳

- ・事業が繰越されたことにより
財源が繰越されたもの 3億3,559万円
- ・財政調整基金への積立 2億4,000万円
- ・令和元年度への繰越 2億2,549万円

※地方財政法により剰余金の半分を下回らない額を基金に積み立てることが決められています。

平成30年度 一般会計・特別会計 17会計の決算を認定 令和元年度補正予算 7件を可決

予算決算委員会報告

平成30年度の一般会計・特別会計の各決算認定について、また、令和元年度の一般会計及び特別会計の補正予算について総務文教・市民福祉・産業建設各分科会にて審査しました。

委員会では各分科会長の報告を受け、それぞれ質疑、意見、討議、討論を行い、採決をしました。結果は、決算についてはすべて原案どおり認定、補正予算についても原案どおり可決と決しました。ここでは、委員会・分科会での質疑や答弁、意見等の主なものを報告します。

- ◎ 質疑
- ◎ 答弁
- 意見

をあらわします

分科会での質疑や答弁

平成30年度一般会計決算認定

◎ 音楽のまち・こもろ作曲コンクールの審査について。市民投票で最優秀賞を決めてはどうか。

○今後、会を重ねる中で、場合によっては、市民参加という方法も良いのではないかと考えている。

◎ 住宅用火災報知器の設置率向上のため、防災訓練時に報知器の設置確認を取り入れてはどうか。

○防災訓練等での啓発を検討したい。

◎ 現在の家庭用防災ラジオは、アナログ波が停止すると使用できなくなるが更新の計画は。

○更新に向け資料を集めている。考えうる方法

のメリット・デメリットの比較、コスト等を検討し令和2年に選定・計画し、令和3年に実施したい。

◎ 市議会議員選挙及び県議会議員選挙の選挙公報を有権者に知らせてもよかつたのでは。

○無投票だったため選挙公報の作成自体がなかった。公報原稿は文書として保存されているので、文書公開の手続きに沿って申請いただければ閲覧は可能である。

● 公約的なものを有権者に知らせる努力をするべきだ。

◎ 民生児童委員の活動実績値を区長や推薦される方に示しているか。

○民生児童委員から毎月いただく活動内容の報告の実績集計値は、区長会で質問があった場合には説明をしている。

● 区長は民生児童委員の推薦に大変苦慮している。区長や推薦される方には活動内容等の資料を提示してほしい。

◎ 高齢者タクシー利用助成事業が廃止となるが、どのようにしていくか。

○この事業は令和3年3月31日で廃止となる。すでに広報こもろ等で周知し、利用者に対しては通知等でお知らせしている。今後は、こもろ愛のりくん等の公共交通を充実させていきたい。

◎ 人権同和政策総務費運営費の具体的な成果説明が無く判断できない。

○主な支出は負担金補助及び交付金で、具体的な指標等は設定できない。引き続き補助団体の決算や活動内容の報告書を提出して説明したい。

◎ 高峰聖地公園費から地域振興基金へ500万円積立しているが、使途は。

○昨年度は合葬式聖地に予定を超える申し込みがあり現在増設を検討している。令和元年度予算で設計し、以降は基金から取り崩して整備を行う予定で基金に積み立てた。

◎ 移住・定住促進事業の新築住宅着工実績に、谷地原区の民間不動産業者による宅地分譲は含まれているか。

○1件含まれている。予約も含め現在9区画すべて契約予定で、4棟が工事完了、工事中である。

● 農村地域や開発が進んでいない地域では、インフラが整備されていないことを理由に他の地域へ移転する場合があります。

そのため地域間バラ

予算・決算審査

入を考えて施策を検討していただきたい。

◎集約駐車場の誘導員の配置をどうしていくか

●苦情はだいぶ減ってきているため、今後に向けて人員を減らす方法や、配置の見直しを課の中で検討している。

●便利な機械などを導入するなど、効率的な運営を検討していただきたい。

委員会での意見と討論

【意見】

指定管理団体などに対する決算評価は、行政のPDCAサイクルによる成果報告だけに頼ることなく、収支報告書や事業報告書を取り寄せて内容を確認して評価するべきだ。

なぜなら小諸市行政のPDCAサイクルマネジメントはまだ改善する点が多々あるからだ。また個別事業にこだわ

るのではなく、事業全体を評価し次年度の予算に反映することが大切である。

【討論】

●一部を認定できないとする討論

(早川委員)

一般会計決算は大方認めるが、同和関連決算は認められない。なぜなら、其々の団体の決算内容を見ても活動状況が見えない。成果説明書でも経常経費扱いとなり成果の検証が出来ないからだ。

同和関連の決算に限らず、すべての補助金、委託料等が目的に沿って効果的に生かされたか十分な検証が必要で、PDCAの行政マネジメントシステムを回す必要がある。

●全てを認定とする討論

(清水委員)

生まれた国や地域等で差別を受けることはなくさなければいけない。平成28年12月に「部落差別

の解消の推進に関する法律」が成立し、この法律に基づき差別を解消する教育や啓発が進められている。成果が見えないからその補助金は認めないという考えには反対である。議会が議決した予算執行を認めないことは、合議制である議会制度を無視する考えである。

(高橋公委員)

予算議決の際、反対討論はあったが議会として原案可決している。

疑問部分は決算審査において資料請求し、執行が確認できた。

したがいは賛成である。

予算決算委員会における議案の表決結果

本欄に記載以外の議案については全会一致で原案可決されました。○は賛成、×は反対をあらわしています。議長及び予算決算委員長は、表決に加わりません。

議案名	あたらしい風					市誠会		創正会		日本共産党		公明党		田邊久夫					
	小林重太郎	中村憲次	清水喜久男	神津眞美子	楚山伸二	高橋充宏	山浦利夫	丸山正昭	小林一彦	高橋公	相原久男	田中寿光	竹内健一		掛川剛	早川聖	土屋利江	柏木今朝男	福島鶴子
議案第83号 小諸市一般会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○

平成30年度
特別会計決算認定

◆小諸公園事業特別会計
◎実収支額(収益) 2千900万円はどうしていくのか。

○今後、動物園、懐古園等の整備もあるので、出来る限り小諸公園施設整備基金に積立ができればと考えている。

●懐古園全体の構想の中で考えていただきたい。

◆野生鳥獣商品化施設運営事業特別会計

◎一般会計からの繰入は今後どうなっていくのか。

○平成30年度は一般会計からの繰入があったが、令和元年度はしない予定である。搬入頭数や精肉処理量が増となっているので、採算はプラスになる見込みである。

◆小諸市水道事業会計

水道は生活していく上で欠かせない重要なインフラなので、老朽化の対応にもこれからもしっかりと対応していただきたい。

●株式会社水みらい小諸に来月から移行するが、しっかりと管理監督を行っていただきたい。

■令和元年度補正予算

【一般会計】

◆7月28日から30日に発生した豪雨に対する農地農業用施設災害復旧にかかる補正予算3千万円。

◎受益者負担として10%を求めるとの説明だが、自然災害なので特例はないのか。

○分担金徴収条例の災害規程で10%としており、軽減はされている。

●分担金が軽減されていることは理解するが、自然災害であるため、

なるべく負担軽減をするべきではないか。

◆浅間南麓こもろ医療センターへ、小諸市で二次救急医療体制を堅持するための財政支援5千万円。

●二次救急医療に対して補助をすることは認められるが、今後病院経営の改善計画等を具体的に示したものを提出するよう求めてほしい。

【小諸公園事業特別会計】

◆遊園地メリーゴーランドの屋根テントが破損し、張り替えるための修繕料2千300万円。

◎遊園地全体が老朽化してきている。長期的な改修等の予算は。

○今のところ予算措置、積立等はしていない。

今後は遊園地の改修計画について検討する必要があると考えている。

条例の一部改正等 9件を可決

条例の設置及び一部改正等について、各常任委員会で審査を行いました。主な議案やそれに対する質疑と答弁を報告します。

総務文教委員会

◆小諸市会計年度任用職員

員の給与及び費用弁償に関する条例の制定

国の法律の一部改正により臨時・非常勤職員が多くが令和2年4月1日から新たに設けられる会計年度任用職員に移行するため、その給与等に関して条例を制定するもの。

◎会計年度任用職員の契約は継続できるのか。

○単年度の契約であるが、平等取扱いの原則や成績主義のもと毎年選考を行うので、再度任用されることはあり得る。

◆小諸市特定教育・保育

施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

幼児教育無償化に伴う法令の一部改正等による条例の改正。

◎今回の改正により副食費は保護者負担になるとのことだが、低所得で保育料が無料だった方はどうなるのか。

○低所得により保育料が無料だった方は、同じ理由で副食費は免除になる。

市民福祉委員会

◆小諸市印鑑条例の一部を改正する条例

住民基本台帳法施行令等の一部改正に伴うほか、県内18市の現況に合わせて印鑑登録の記載事項等を変更するための改正、令和元年11月5日から施行するもの。

◎具体的にどのような変更となるのか。

○今回の改正で印鑑証明書については、氏名の下に旧（きゅう）氏（つじ）が二段書きで記載できることとなった。記載を希望される方は戸籍の謄抄本等の公的な証明書を添付し、申請していただく。

◎すでに登録している方についてはどうなるのか。

○今までに登録してあるものについては、変更等は特にない。

産業建設委員会

◆小諸市営住宅条例の一部を改正する条例

厚生住宅の払い下げに伴い、所要の改正を行う。

◎厚生住宅は希望があればいつでも売却できるようにしているのか。建物の耐用年数の2分の1を経過したものに、申出があれば順次払い下げを行っている。

一般質問

代表質問 5名

個人質問 12名



期日前投票所の増設はできないか

公明党 代表 土屋利江

質問
成人風疹抗体検査と予防接種の現状はどうか。

市長
今年度、接種対象となる昭和47年4月2日〜昭和54年4月1日迄の男性2千83名に対し、4月中旬にクーポン券を発送した。対象でない方も20名発行済みである。

質問
体力の弱い高齢者や子どもの重症化を予防するためにインフルエンザワクチン接種は重要だと考えるが、65歳以上の高齢者の予防接種の助成制度の状況はどうか。

保健福祉部長
平成30年度は6千956名の方が予防接種をされ、費用は2千200万円で、3割は交付税措置である。

質問
受験生のお母さんから要望をうけたが、中学3年生と高校3年生にインフルエンザ予防接種の助成金の検討はどうか。

保健福祉部長
対象の児童・生徒は760名いるが、

任意接種なので助成の経費は全額市の負担となる。同様の補助をしている自治体の情報収集をする。

質問
期日前投票所の増設はどうか。

選挙管理委員会委員長
本市の期日前投票率は、常に高い状況である。参議院選挙においても期間後半の3日間臨時開設をした。人件費で30万円強の経費がかかり、投票所間を結ぶオンライン化の設備費等が上乗せになる。増設に関しては更に研究していく

質問
投票所数の現状と利便性の向上についてはどうか。

選挙管理委員会委員長
平成23年1月から21ヶ所として可能な限り公共的な施設へ移行した。投票所まで1kmを超える地区には投票所直行便を巡回している。

質問
投票所直行便5台、市の公用車が巡回しているが利用状況とどれくらいの経費がかかるのか。

選挙管理委員会事務局長

平均利用者は5〜6名で経費は、合計7万5千円程度の人件費である。

質問
利用者が少ないと感じる。直行便の費用対効果を検証し、期日前投票にこもる愛のりくんを利用した方に乗車券の補助はどうか。

選挙管理委員会事務局長
国の制度において利用券の補助も執行経費の中で対象となるが、対応できるか検証していく。

質問
有権者の選挙に対する意識向上の対策が大事だが「家族みんなで投票に行こう」の成果はどうか。

選挙管理委員会事務局長
昨年は、子どもさんが57名応募市議選は、学校側の配慮により投票箱を設置し82名の応募があった。



家族みんなで投票に行こう



持続可能な小諸市であり続けるために

市議会 代表 山浦利夫

質問

平成30年度決算をどのように捉えているか。

市長

小学校改築再編方針の策定、複合型中心拠点誘導施設の基本設計、消防庁舎の実施設設計が完了するなど、喫緊の課題に対して着実に歩みを進めた1年であった。

質問

小諸市が持続可能な自治体であり続けるためには健全財政は不可欠である。健全財政の維持にどう取り組んでいくのか。

市長

限られた財源を最大限に活かし、市民の立場に立った行財政改革・働き方改革の取り組みを強化し、健全財政を維持していく。

質問

厳しい財政運営が想定されるが効率的・効果的な財政運営についてどのように考えているか。

市長

限られた財源を有効に活用するため、事業の選択と集中を進める

と同時に収入増加につながる事業には積極的に取り組みたい。

質問

自主財源の確保は大変重要だ。安定的な自主財源の確保にどう取り組んでいくのか。

財政課長

税収のアップにつながる産業振興や移住施策の振興など、人口減少を抑えていく施策等に資源配分していくことが重要かと思う。

質問

第10次基本計画は今年度で終了するが、第11次基本計画にも財政目標は入れていくのか。

財政課長

次期計画にも財政計画は設定していきたい。目標の数値等については、現状にあった形で改めて設定したいと考えている。

質問

今後も超高齢化の進展、人口減少が進む中で財政運営の課題についてどのように考えているか。

財政課長

超高齢化の進展により社会保障

関連の経費が増える一方、人口が減少する中で市税等の収入は減少となり、非常に厳しい財政運営が課題になると考えている。また、行政サービスを縮小していくに当たって、市民合意を得ていくことが一番の課題かと考えている。

質問

将来的に健全財政を維持していくために、中長期的視点に立った「中期財政計画」の策定が必要だと考えるがどうか。

財政課長

例えば、今後の中期5年間に絞ったの財政計画が非常に重要になってくるかと思う。基本計画等の見直しの中で検討していきたい。

質問

公共施設等総合管理計画の着実な進行管理が重要になる。総括部署設置の考えはどうか。

企画課長

今後、企画・財政・総務・危機管理課でのチームをコアとして、そこに所管課が入り議論をしていく体制を組んでいきたい。

質問

持続可能なコミュニティ交通の構築には、事業の収支比率の改善が必要だと考えるがどうか。

建設水道部長

収支率は14〜15%程で推移している。これまで様々な改善を継続してきたが、収支率の向上は今後の課題になるものと捉えている。

質問

コミュニティ交通の持続可能な運行のためには、市民に適切な負担の理解をお願いしていくべきだと考えるがどうか。

市長

適切な負担を考えないわけではないが、高齢者については事情を考慮する中で、愛のりくんの利用料の減額等は考えていきたい。

意見

人口減少をいかに抑えていくか、移住定住や子育てといった支援も出てくる。様々な角度からしっかりと検討し、進めていただきたい。





決算審査意見書の内容と幼児教育無償化問題

あたらしい風 代表 清水喜久男

質問

監査員からの「一般会計決算審査意見書」に対する見解はどうか。

市長

監査員の意見書では、市債残高の増加、基金の減少が進んでいること、また、今後は人口減少と高齢化が進み税収増加が見込めない中、社会保障の増加が進み、厳しい財政運営が強いられていることなどが指摘されている。今後においては自主財源の確保に努め、計画的財政運営を進めたい。具体的には「財政改善策」における繰り上げ償還や新規事業を行う際の財源確保と既存事業の見直し等を着実に実行したい。

質問

公園特別会計の小諸市動物園は令和8年に百周年を迎えることから再整備を進めているが、公園施設整備基金が少ないと考える。

産業振興部長

再来年度までの第一期計画では、地方創生推進交付金を活用することで進めているが、その後の整備

に対する財源のめどが立っていない状況なので、一般会計からの繰り入れや寄付の募集、クラウドファンディングなどを検討しながら進めたい。

質問

幼児教育の無償化に伴う財政への影響はどうか。

市長

10月から3歳〜5歳の全ての子どもと、0歳〜2歳の住民税非課税世帯の子どもについて、幼稚園・保育園・認定こども園の利用料が無償化となる。また、新たに幼稚園の預かり保育や認可外保育施設、病児保育事業なども対象となり無償化の範囲が拡大された。無償化にかかる費用の負担は、国が2分の1、地方負担は県が4分の1、市が4分の1であり、今年度の市の負担分は臨時交付金により国が補填する。次年度以降は、地方消費税の増収分を充てることとなっているが、現時点では財源確保の見通しは分からない。

質問

幼児教育の無償化に伴う問題点はどうか。

市長

無償化により多くの子育て支援の施設や事業所が利用しやすくなるため、利用者が増えた場合、施設の定員に余裕があっても、保育士不足が懸念され、その確保に苦慮すると考える。また、無償化の対象範囲が拡大され、新たな事務が増えるため担当課の業務負担が重くなる。

質問

無償化となると入園児は増えることが予想されるが、保育士不足とならないように待遇改善する必要があるのではないか。

教育次長

嘱託の保育士、特にクラス担任については負担が大きいと承知している。来年度から「会計年度任用職員制度」が始まるので現状よりは改善できる。

質問

無償化に伴い都市部では「認可外保育施設で指導基準を満たしていない施設」もあるが、5年間の猶予期間があり無償化対象施設となっていることから保育の質の低下が懸念されている。小諸市での

認可外施設数と状況はどうか。

教育次長

市内の認可外保育施設は6施設あり、県が指導監督基準に基づいて、年1回以上立ち入り検査をしている。

質問

公共施設等総合管理計画（個別実施計画）の策定状況はどうか。

市長

公営住宅や道路そして橋梁、上下水道等のインフラ関係は、ほぼ策定済みである。未策定の高齢者福祉施設、保育園、小中学校等のいわゆる箱物については、本年度末までの計画策定を目的に進めている。なお、施設の廃止や統合は個別実施計画の策定内に結論つけるのは困難であるので、一旦は現状を維持し長寿命化を図りたい。



10月から幼児教育無償化となる保育園



行楽時の渋滞緩和に市駐車場活用やマップ

創正会 代表 相原久男

質問

行楽シーズンに向け、懐古園周辺の生活道路の安全確保・渋滞緩和による観光客のおもてなしや、市役所駐車場活用による市街地回遊促進に対応する方針はどうか。

市長

懐古園の桜や紅葉が見ごろとなるシーズンは、土日を中心に一日6千人から7千人の来園者がある。ピーク時には懐古園駐車場が満車となり、駐車待ちの自動車が道路上に連なるため、周辺道路の渋滞の原因となり、住民の皆様の生活道路に迷惑をかけている。

今後の対策として、市町や南町交差点への迂回看板設置などで、懐古園道路に入る前の迂回を促す。また、来園目的で並ぶ自動車には、駅や市役所周辺の駐車場マップに加え、懐古園駐車場と他の駐車場の料金比較による割安なメリットなどを強調したチラシを作成し配布をする。観光客にも協力を仰ぎ、街歩きマップを合わせて配布し、観光客の街中への誘導と駐

車場利用の分散化を促し、渋滞や混雑緩和を図る方針である。

質問

公共施設等周辺の景観の保全に対応する方針はどうか。

市長

公共施設には、都市公園内に設置されている施設が多数あり、懐古園の藤村記念館、小山敬三美術館をはじめ、文化センター、高原美術館等が挙げられる。それらの施設の樹木が年々大きくなり、公園設置当初の景観とは大きく変化している状況である。景観保全に対する樹木の対応については、公園長寿命化計画の維持管理方針において「利用者の安全と利便性を確保するための維持管理をする」とあり、災害による倒木や枯損木が増える中、利用者の安全性を最優先に、利便性を含め、優先順位を決め対応している状況である。

質問

小諸市第11次基本計画の策定方針はどうか。

市長

本市では首長任期と基本計画の連動性を高めるとともに、整合性を図ることを主眼に、基本計画の計画期間を4年間としている。

第11次基本計画については、来年度予定されている市長選において選ばれた首長の公約を十分に反映させて策定する必要がある。第10次基本計画の総括を十分に活かし、施策で掲げる目的・目標に照らし合わせて、必要性・効率性・有効性・公平性・優先性といった観点で評価が行えるように事業が



市民任せにせず行政は本気のまちづくりを

日本共産党 代表 掛川 剛

質問

お宝さがしで始まった「地域別まちづくり方針」実現のための総括が見えないが市はどう進めてきたか。

市長

自治の主体は市民なのだから「市民主体の原則」をもっと市民に投げかけていきたい。行政に頼らない地域の取り組みについては高く評価している。

計画されているかどうか、検証・検討を進めた上で策定していく考えである。



紅葉の懐古園

質問

そういう取り組みの全市的な底上げを図るのが行政の仕事ではないのか。具体的には区・市民団体等の連携を進めるパイロット事業を立ち上げる計画だったがどうか。

企画課長

パイロット事業は立ち上げなかったが、それぞれの取り組みを広報や区長会で紹介した。

意見

市民任せにするのではなく、市民と行政がそれぞれの立場を踏まえた上で、ともに力を出し合っていくことが一番大事なことです。

質問

太陽光発電について指導要綱・改定ガイドラインの運用が始まりました。区長等への説明や助言体制は十分にできているか。

市民生活部長

区長会で説明してきた。新ガイドラインがなかなか理解できないところもあると聞いている。

質問

困っている区へはどのように対応しているか。

市民生活部長

市の窓口相談してもらえれば丁寧・親切的な説明をする。

質問

設置すべきでないエリアへの事前協議はあるか。

市民生活部長

1〜2件の事前協議があった。

意見

きちんとガイドラインに沿った対応を求める。

質問

豪雨により調整池があふれる状況が何件もあった。浸透試験は当

てにならない。どう対応していくのか。

市民生活部長

情報共有も図りながら、現場も見て行政指導をしていく。

質問

旧宮沢トンネルは、ワインの貯蔵に適している条件があるので、関係者が利用を希望している。市の管理だが活用できないか。

建設水道部長

農業集落排水の管が設置されていることや古いトンネルで安全性の確認等課題やリスクがある。

質問

可能性があるのだから困難は克服していく努力をすべき。

市長

利用したいという方と協議していければと思う。



活用が期待される旧宮沢トンネル

個人質問



小諸大橋と、そこからの景観をまもれ!!

高橋 公

質問

小諸大橋付近からの景観は浅間山と断崖絶壁の下の千曲川が同時に見られる「信濃の国」の歌詞からも連想される素晴らしい景観だ。ところが最近では自殺の名所になりつつあるが対策は検討したか。

建設部長

現状よりさらに高い防護柵も検討したが、逆効果かもしれないのでやっつてはいない。

しかし鎮静効果があると云われている青い照明灯にし、橋中央部の待避所は車を止められないような対策をした。

質問

小諸大橋からの景色で観光客は徐々に増えると思う。従い軽井沢大橋のような有刺鉄線と高い壁に囲まれた橋にはしたくない。

そこで橋から下を覗き込んだ時だけ見えるステンレスの棒とか、夜も効果がありそうな懐古園で使っている盆提灯とか、丸子でやっているような鯉のぼりなどを設置して雰囲気を変えてはどうか。

建設部長

雰囲気を変えることで効果があるかもしれない、ひとつの案だとは思っている。同様の橋を持つ他の自治体が進取的な取り組みをしているのも効果の検証が難しい。

引き続き有効な対策を庁内全体で研究していく。

市長

橋に対する設備的な対策は他の例を見てもなかなか効果的ではない。社会全体でゲートキーパー（自殺願望を見抜き、相談に乗ってくれる人）を養成していく取り組みが必要だと思う。



下から見た小諸大橋



これでよいのか、飯綱山公園の手入れ

小林 一彦

質問

飯綱山公園は、平成6年から平成20年度までの15年間の歳月と、31億円あまりの事業費を投じて整備された公園である。

統計小諸によれば、平成29年度の来訪者数は18万3千500人。整備にかけた莫大な労力、費用を考えれば、十分な投資効果が出ているとは言い難い。桜と山城、360度の眺望に加え、美術館、動物愛護センター、ドッグラン、草滑りなど誘客の資源は揃っている。

しかしながら、現在のようにな十分な管理を続けていくとしたら整備にかけた投資が無駄になってしまい、せっかくの資源が宝の持ち腐れになってしまう。

市長

今まで投資してきたものを最大限発揮するという中で、そのバランス等を考えて、今後対応を考えていきたいと思う。

質問

飯綱山公園を山城のある、桜の



富士見城三の郭の石垣に被る雑草

名所にしていくためには、公園の管理をしていくうえで必要な予算をしっかりと計上していただきたい。

併せて、桜の里親制度が機能するような仕組みを再構築していかなければならないと思うが。

市長

公園管理、手入れ、また里親制度の見直しについては、総合的に取り組んでいかなければならないなど感じている。

総務部長

今年の反省を活かし、予算の配分や実施時期など、取り組みについて精査させていただきたい。



今後の深沢川周辺整備はどうか

丸山 正昭

質問

みはらし交流館の周辺、特に管理されておらず今のままだと雑木林になる恐れのある私有地の維持管理はどのように対応するか。

市長

みはらし交流館は都市住民との交流施設であり、糠地地域活性化の中心的な施設であるので、周辺の環境整備は重要な課題と認識している。

みはらし交流館及びその敷地内の管理は丁寧に行なわれているが、敷地周辺の私有地の環境整備は非常に気になる状況である。

これらの周辺環境については、市あるいはみはらし交流館の管理運営団体である「西小諸活性化施設運営委員会」が管理すべき土地ではなく個人の所有地なので、その管理については土地の所有者が行うべきものと考えている。

質問

深沢川周辺は国の事業で平成21年に林道やトイレが整備された。従い積極的に観光PRするべきと



交流館周辺未整備状況

思うが、林道や歩道の維持管理と今後の利活用についてはどうか。

市長

来訪者が安全で快適に施設及び「森の道」を利用いただけるよう、関係機関と連携し、引き続き適切な維持管理に努めていく。

なお、深沢川周辺地域については長野県森林づくり県民税の事業を活用して森林整備を進め、森林浴のみならずオオムラサキ蝶が生息する森の整備、地域の皆様と来訪者が交流できる炭火焼き体験など、さまざまな交流体験の場を提供できるようPRに努めていく。

個人質問



市民一人一人の『稼ぐ力』を育てる政策を

楚山伸二

質問

基金残高の長期見通しはどうか。

市長

今年度決算で65億円余の基金残高が、令和10年度末で13億円余と見込む。財政運営の原則では、標準財政規模（90億円程度見込）の40%を下限としており、目標に対して22億円余の不足となる見通し。

質問

当市の財政構造の特徴はどうか。

財政課長

県内19市との住民一人当たりでの比較では、市税の徴収額が19番目（最下位）であり、自主財源の担税率が特に弱いと感じている。

質問

過去5年間、そして今後10年も毎年平均して5億円ずつ基金（貯金）が減っていくという状況と見通しの中、仮に基金が底をついた場合どういった事態が生じるか。

財政課長

仮にそうなった場合は、非常に厳しい予算編成になる。財源が無ければ補正予算も組めない。大雪

災害で基金もなく職員給料をカットして対応した自治体もあった。

質問

将来世代に対して「負の遺産」を残さないために最も重要と考えていることは何か。

市長

選択と集中を用いて歳出を削減していくこと。健全財政を維持しつつ、産業振興やブランドを確立し税収を上げていきたい。

意見

担税率が低いという課題を克服するためには、市民一人一人の稼ぐ力を育てる政策に力を入れてほしい。



高齢者の力を活かした地域コミュニティを

高橋充宏

質問

市は地域における高齢者の力をどう活かせるか。

市長

地域において、区の役員をはじめ市でお願いする各種委員などにご協力いただいているのは、高齢者の割合が高い。高齢者の皆様には豊富なご経験と知識を活かしていただき、ボランティア活動を含めた地域社会の支え手として活躍いただきたいと考えている。

質問

市は高齢者クラブの役割と必要性をどう認識しているか。

市長

高齢者クラブの活動は地域での高齢者の生きがいづくり、社会参加の推進という点において大きな役割を果たしていただいている。市としても高齢化社会が急速に進行している中、高齢者クラブの果たす役割には大きな期待をしているので、高齢者クラブ連合会とも意見交換を行いながら協力をしていきたい。

質問

市は民生・児童委員のなり手不足解消をどう考えるか。

市長

小諸市では民生・児童委員協議会の事務局を担い委員が活動しやすい協力体制づくりに努めている。委員のなり手不足を解消できる決め手については現在のところみつかっていない。他市では委員を補佐する協力員というボランティアを設け委員を助けてもらうという動きもある。小諸市においても委員活動の負担軽減が図られるよう研究し、なり手不足解消に向けた取り組みをしていきたい。



小諸市高齢者クラブ大会



幼児教育・保育の無償化の進捗状況はどうか

田中寿光

質問

本年10月からの無償化に向けた作業行程の進捗状況はどうか。

教育長

各施設とその利用者については、それぞれ無償化のための手続きが必要で、8月中に書類をいただき、今月審査決定、そして通知をしていく予定である。

質問

各事業者と利用者への説明、周知の状況はどうか。

教育長

無償化についての説明と周知は、まず幼稚園・保育園・認定こども園などの施設で行なった。各施設の利用者へは、無償化によって施設利用の費用が変わることから、各施設に説明を行っていた。

質問

利用者からの食材費徴収について課題はあるか。

教育長

無償化により、3歳以上の副食費が保護者負担となるので、10月から徴収するようになる。金額は



国で示す公定価格に合わせて、月額4千500円とする。ただし負担軽減で、年収360万円未満の低所得世帯と、所得にかかわらず第3子以降の副食費については免除となる。

質問

無償化に伴い、今年度の小諸市の財政負担は軽減となるか。

教育長

今のところ臨時交付金の算出方法がまだ具体的には示されていないので、今年度の財政負担がどの程度軽減となるかについては、はっきりしない状況である。



市職員で構成される地域職員連絡会の役割は

田邊久夫

質問

活動状況と期待する役割は何か。

市長

地域職員連絡会の役割としては主に三つあり、一つ目は地域のまちづくりに関する職員及び区などへ情報提供、二つ目は地域課題の解決に向けた職員及び区等との意見交換、三つ目は地区担当職員の選任になる。また、地区担当職員の役割としては主に二つあり、一つ目は市の施策、計画にかかわる情報提供及び住民意向の把握にかかわること、二つ目は区で生じた課題及び問題に対する担当課との連絡及び調整となる。

質問

基本構想における「目指す地域の姿」を達成するために、今後、具体的にどのような取り組みを進めていくのか。

市長

地域の目指す姿の実現に向けては、各地区で実施されている地区懇談会の取り組みを工夫しながら積極的に進めていくことが効果的

であり、重要であると考えている。地区懇談会の取り組みは地域の皆様が主役であるが、地域コミュニティの希薄化が進む中で、市職員で構成する地域職員連絡会及び地区担当職員の役割もますます重要となってくるので、今後とも区長さんをはじめ地域の皆様との連携、協力を深めていきたい。



地区懇談会風景

個人質問



災害に強いまちづくりシティプロモーション

柏木今朝男

質問

災害に強いまちづくりのために、「国土強靱化地域計画」を速やかに策定すべきと考えるがどうか。

総務部長

小諸市地域防災計画の不断の見直しと改定作業を進め、来年度改訂の第11次基本計画にも、強靱化計画の内容を反映させていきたい。

質問

防災拠点・避難所における災害時の非常用電源設備や正確な情報収集のための公衆無線LAN設置等の環境整備は必要不可欠では。

総務部長

非常用電源設備は、防災拠点は配備しているが、避難所の多くは公民館で、68区中17区が設置、未設置の区は補助金等活用促進により体制づくりをしたい。公衆無線LANの整備は、計画的に検討しなければならないと考えている。

質問

小諸の魅力を市内外に発信し、目指す市の理想像を実現していくためには、戦略的なシティプロモ

ーションが重要であり、「小諸ブランドの確立」と「魅力の発信力」が鍵となると考えるがどうか。

市長

小諸ブランドは、買いたい、訪れたい、交流したい、住みたいといった思いを誘発するものであり、様々な分野に可能性がある。まずは私たちが地域の魅力や特性を再認識し、あるものを生かす、磨くを実践することが重要であり、このことが周辺に好循環をもたらした地域を元気にする。情報発信力は、市職員の意識改革が進んできている。小諸ふるさと市民制度も活用し、発信力を強化していきたい。



小諸市観光パンフレット(信州小諸マップ)



市民に明確な説明が出来る事業選択を

福島鶴子

質問

指定管理者制度のメリット・デメリットをどう捉えているか。

市長

メリットは、民間事業者のノウハウの活用で、利用者へのサービス向上と、経費削減が図られる事。デメリットは、指定管理者が、コスト削減にのみ着目する事でサービスの低下になる懸念がある。

質問

「公の施設」についてどの様に認識しているか。

市長

自治法第24条第1項で、「市民の福祉を増進する目的をもって、その利用に供する為の施設」とあり、その様に認識している。

質問

旧脇本陣「糸屋」は、公の施設の要件に当てはまると考えるか。

市長

総務省のホームページに、国民宿舎、海の家、山の家等も公の施設の例として挙げられている。利益を追求する収益事業の為の施設

でないで当てはまると考える。

質問

市長の「決算行政報告」では、この施設を、旅籠「糸屋」と言っている。業としてのイメージであり、業であるなら利益を追求する施設であると考えるがどうか。

産業振興部長

一つの施設で一つだけの顔ではなく、宿泊の部分については財源の一つになると理解している。

質問

行政の姿として疑問を感じる。

市長

公の施設か否かも含め、議会で議決をいただいている事である。

故事にこんな言葉が ……

例外のない規則はない

旅籠「糸屋」は公の施設？



戦争の実相を次世代に継承し、平和を守ろう

早川 聖

質問

小諸市には、平和憲法の精神に則り、「世界連邦平和都市宣言」と「非核平和都市宣言」がある。

旧市庁舎時代には、市民の目にとまるよう掲揚・掲示していたが、新庁舎になってから消えてしまった。小諸市として平和への意思を風化させないために、市民の目に見えるように改め、啓発すべきではないか。

また、来年は終戦75周年の節目に当たる。「広報こもろ」に平和に関する特集記事掲載や原爆等戦争関連のパネルを図書館・市役所ロビーで展示啓発できないか。

総務部長

平和都市宣言等の趣旨を大切に、新庁舎の中で「宣言」を掲示検討するとともに、広報への平和啓発の記事掲載や庁舎へ懸垂・横断幕を平和の記念日に掲示したい。

質問

平和教育とは、じかに歴史を学び、実感として受け止められることが大事だ。親子平和教室や平和

学習、戦争体験談等、身近にある戦争関連遺跡見学等ができないか。

教育長

戦争体験者の話等のDVDも各校に配布している。地下壕見学も幾つかの学校で実施している。

質問

米軍機が佐久地方上空を低空飛行した。昭和28年の浅間山米軍演習地設置に反対し撤回した経緯に学び、市長が率先し市民と共に米軍機訓練問題に取り組むべきでは。

市長

市民の驚きや不安、恐怖があれば、先頭に立って戦う決意を常に心の中に秘めている。



不登校の児童生徒への着実なサポートを！

小林重太郎

質問

子どもの不登校は何らかのSOSの発信と捉えるべきではないか。

市長

不登校は、学業不振や人間関係、家庭環境など児童生徒を取り巻く状況が複雑に絡み合い、子ども本人の内面に影響を及ぼすことで発生するものと捉えている。このことから、その子どもが抱える悩み

に起因した心の訴え、SOSの発信とも捉えられるものであると認識している。

質問

家でも学校でもない民間の子ども居場所の役割と連携についてどのような認識を持っているか。

市長

子どもの居場所と位置づけられるのではないかと感じている。情報提供等の連携をしていきたい。

質問

保健室（養護教諭）の役割をどう捉えているか。

教育長

児童生徒の心身の健康状態の把

握、保健指導などを受け持つ養護

教諭は、専門的立場から多くの役割を担っている。さまざまな課題を抱えた児童生徒が訪れ、健康だけでなく家庭の悩み、勉強や友人関係の悩みを打ち明ける場となっている。児童生徒の心のよりどころとも言うべき役割がある。

質問

教育支援センターは、子どもの居場所になっているか。

教育長

学校生活や学習などにおける悩みごとの相談にも応じている。子どもたちにとって安心できる場所となるように努めている。



小諸市教育支援センター（諸区）



行政評価方法の改善は進んでいるか
神津眞美子

質問

決算に当たったっての事業評価は、次年度の予算編成を方向づけていくので極めて重要だ。そこで、評価を誰が見ても分かるよう透明化を図る意味で、客観的な評価指標が必要と考えるが、どうか。

企画課長

来年度は第11次基本計画を策定し、システム更新の時期でもある。評価の基準を示すことが、全体の意思統一も図れるので、その方向で検討していきたい。

質問

行政評価方法の改善に向けた取り組みで、忘れてならないのが市民にとってどうかという視点だ。この視点が入ることで、職員意識も根づいていくと考えるが、どうか。

企画課長

事業評価シートの中で生かせるような形にしていきたい。

質問

昨年大規模改修で長期間休業していた「あぐりの湯」が、今夏の

トップシーズンにも休業していたが、どうしてか。

産業振興部長

スケール除去で休館した。課題がありながら財政状況も考えた中で、なるべく先送りだと考えていたが、湯量がかくと減ってしまい、早急にやらなければいけないと決断し、実施した。

意見

大規模改修で費用をかけても、それらが機能していない現実がある。状況が一番分かっているのは現場のスタッフだ。現場の声を聞き、適切な運営管理をされるように強く要請する。



平成30年度 決算書類

12月定例会日程（予定）

月	火	水	木	金	土	日
11/25	26	27	28	29	30	12/1
← 本会議 (提案説明等) 予算決算委員会 →						
2	3	4	5	6	7	8
← 本会議 (一般質問) →				← 予算決算委員会 →		
				← 総務文教委員会 →		
9	10	11	12	13	14	15
← 予算決算委員会 →						
← 市民福祉委員会 →		← 市民福祉委員会 →				
16	17	18	19	20	21	22
				← 本会議 (委員長報告等) →		

* 予定のため日程が変更になる場合があります。
開議時間は概ね9時です。
詳しくは、議会事務局22-1700(代)へお問い合わせください。

皆さんの要望を市議会に
請願・陳情ができます。

市議会では、皆さんの要望などを請願や陳情として受け付けます。提出された請願や陳情は内容を審査し、採択・不採択を決定します。

【請願・陳情の記載についての注意事項】

- ・日本語で記載してください
- ・次のことを記載してください
趣旨及び要望・要請内容、提出日、請願・陳情者の住所・氏名・押印
- ・紹介議員の署名または記名・押印(※請願の場合)

詳しい内容は議会事務局までお問い合わせください。

傍聴をお待ちしております

議会とかたる会 で出された主な意見をお伝えします。

テーマ 市議選の無投票を考える —市民にとって魅力ある議会とするためには—

7月1日から8日にかけて開催した「議会とかたる会」の意見の集約・整理を行いました。

今後は、皆様からいただいたご意見をもとに、議会内で検討してまいります。

参加者総数135人 地区別（大里16人、北大井11人、川辺25人、三岡17人、西小諸 17人、中央24人、南大井25人）

現状と課題	主な意見
無投票について	
①意見	<ul style="list-style-type: none"> ・無投票に問題を感じていない。 ・選挙はあった方が良い。
②無投票のデメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな人が議員になったのか、どんな公約を持っているのかわからない。
無投票となった背景	
〈市政に対して市民が無関心〉	
①興味がない	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙に無関心でも不自由がない。
②生活面から	<ul style="list-style-type: none"> ・非正規労働者が増加する中で、政治には無関心とならざるを得ない。
③その他	<ul style="list-style-type: none"> ・投票場所が少なくなったことが投票率の低下に影響しているのではないかと。 ・投票率が悪いのは有権者が市議会に興味がないから。
〈立候補しない理由〉	
①現行の仕事に対する不安	<ul style="list-style-type: none"> ・次の保証がないので若い人が立候補しにくい。
②選挙に対する不安	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の賛同が得られない。 ・選挙費用がどの位かかるか。 ・基盤（地盤、かんばん、かばん）を持っていない。
③議員としての職務に対する不安	<ul style="list-style-type: none"> ・市議は大変だという意識が強い。
④その他・期待	<ul style="list-style-type: none"> ・若くて仕事ができる魅力ある人に立候補してもらいたい。
〈議員報酬〉	
①少ないと思う意見	<ul style="list-style-type: none"> ・議員報酬だけでは生活が成り立たない。
②多いと思う意見	<ul style="list-style-type: none"> ・議員に賞与はいらないのでは。
③妥当な金額だと思う意見	<ul style="list-style-type: none"> ・議員報酬に問題は感じない。
〈議員定数〉	
①定数は多いという意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市のために働いていれば議員は多くても市民は納得する。
②その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・定員を削減すれば市民の意見を聴取する機会が狭まる。
〈選挙制度〉	
	<ul style="list-style-type: none"> ・無投票でも議員の公約を市民に知らせてほしい。 ・選挙費用の内公費負担分がどの位かかるかわからない。
〈その他〉	
①議員のPR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市の課題を市民に分かりやすく伝える。
②市民から議員への要望など	<ul style="list-style-type: none"> ・市民から議会へ要望するツールが必要。
③議会の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・会派の活動が見えない。個人の意見が反映されているか。
④議員個々の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・一般質問に提案や提言がない。
⑤議員の職務についての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の代表だけでなく、他の地域・全体をみることも大事だ。
⑥後継者（立候補者）の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人を育てる気がない。
⑦女性議員について	<ul style="list-style-type: none"> ・女性議員を増やすことで解決できることもある。

市民から出された解決策（案）

- ・夜間・休日議会の開催。
- ・小学校から主権者教育をする。
- ・若い人が立候補したいと思えるよう勉強会を開く。
- ・議員だけで生活が出来る報酬が必要。
- ・報酬を少なくして定数を増やす。
- ・社会保険制度を見直し、議員が社会保険に入れるように。
- ・定数減も考える。無投票回避のため。
- ・選挙費用が公費で出ることを詳しく知らせると出やすくなる。
- ・議員のやりがい、取り組み、役割を発信する。
- ・もっと色々な（インターネットなど）手段で議会活動を知らせる。
- ・テレビや議会報告で見れない人がいるので告知方法を考えてほしい。
- ・議会・議員の仕事を学べるような塾があったらよい。



※詳細についてはホームページでご確認ください

地域の課題等、当日の質疑で
回答できなかったものについて、
担当課に確認しました。



※紙面の都合により、回答は一部のみ掲載しております。詳細についてはホームページでご確認ください。

◆消防課

質疑 近所で火災があつても防災無線が鳴らず気づかない。せめて同じ区内であつた場合には放送して欲しい。

回答 消防署・消防団と区長会などで相談しながら、防災無線の有効な使い方と火災の周知方法を検討する。

若い住民が区の仕事に積極的になってくれない。

回答 組織のあり方等について行政も一緒に検討してもらいたい。

回答 区を取り巻く様々な課題の解決に向けた、組織のあり方等（例えば、区の枠を越えた地域内の連携など）については、市も一緒に考えていく。

◆企画課

質疑 地域の課題として、少子高齢化による人材不足で区の運営（役員・消防団・区内道普請・少年野球・少女ソフトボールなど）に支障が出てきている。
また子育て世代などの

◆学校教育課

質疑 不登校児の対策については主任児童委員会でも議論しているが、行政でも検討していただきたい。

回答 不登校対策は、これまで各学校において



◆生活環境課

質疑 環境問題は、自分自身の問題、命の問題としてとらえ、マイクロプラスチック、燃料電池

て取り組んでいたが、昨年度専門家による「不登校対策研究委員会」からの提言書をもとに、本年度はさらにその取組みを強化して進めている。

等について学ぶとともに行動に移す施策をとっていただきたい。
回答 令和3年に改定予定の環境基本計画の中で検討したい。

◆建設課

質疑 区長が申請する要望事業について、何年も継続して申請しているが一向に進まない。その状況について区に説明していただきたい。

回答 区長が申請する要望事業は、「改良」事業と「維持補修」事業に分けて申請を頂いている。「改良」事業については、各区からいただく多くの申請に対し、4分の

1程度の実施となっているのが現状である。
地域要望に関して真摯に取り組み、事業進捗について区長へ丁寧な説明に努める。

◆その他

質疑 議会運営に対する市長の申し入れは越権行為ではないか。

回答 「市民に分かり易い一般質問にしたい」という趣旨の申し入れがあるので、議会としても検討していく。

回答 全ての要望に答えられない状況であるが、地域要望に関して真摯に取り組んでいく。

また防災については、自ら備えていただく「自助」または、区や地域で助け合う「共助」につい





ぼいす

第10回

キラキラ小諸人

池の前卓球サークル

池の前卓球サークルをお訪ねしました。

このサークルは、小学生から高齢者までの幅広い皆様が卓球や会話を楽しんでいると感じました。

Q1 サークル活動のきっかけは。

池の前公民館は老朽化により平成27年10月に新しく建て替えました。旧公民館は池の前地区自治会を長く支えてきた地域住民の交流の場としての経緯や親しみもあり、卓球台やラケットがあったことから小学生や愛好者たちによりサークル活動を再開しました。

Q2 どんなサークルですか。

小学生から大人が合同で活動しているサークルです。小学校PTAでは春と秋の定期的な練習会

とママさん愛好者や小学生の子ども達も含めて練習して参加者は増えていきます。

Q3 参加する楽しみはなんですか。

卓球や会話が楽しめ、子供たちから元気をもらえることです。

Q4 今後の活動目標はなんですか。

旧公民館の活用は、新公民館ではできない卓球や剣道を行っています。成人や高齢者が健康器具を使って筋力を維持するトレーニングが必要と考えます。しかし、一人で行うと飽きがくるので多くの皆さんと一緒に行うことで長く続けられる活動を進めたいです。

Q5 市民の皆さんにお願いしたいことは。

大勢で筋力トレーニング



グを行いたいのので、各家庭で使用してない健康器具がありましたら寄付して頂きたいです。
【連絡先】池の前常会長 板垣栄治さん 090・4950・0913

編集後記

ある日突然電気が消えた。照明をはじめ、テレビ・冷蔵庫・洗濯機あらゆる電気器具が使えなくなり、停電により水道も断水。それが何日も続く生活。
こんなことが現実になり、千葉県では台風15号により大規模停電が長期間に渡り、2週間経っても3千戸が未復旧。昨年は北海道でも全道に及ぶ大停電があった。
最近の災害を見ると、予想しなかったようなことが次々と起きていく。巨大化する台風や線状降水

帯による長時間の豪雨、竜巻などの気象災害、そして大地震、火山災害等々。小諸は大丈夫？
小諸市では昨年から各区での防災訓練を呼びかけ、区では様々な訓練が行われ始めています。
議会でもこれまで、見学だけの訓練から自らが考えて行う訓練にしようと市に求めてきました。
ようやく始まったばかり。災害はいつどんな形でやってくるかわかりません。備えは怠りなく。
(副)



小諸商業高校の皆さん

傍聴席

(石田桃珠さん)
私たちが傍聴した内容は、主に小諸市の主権者教育についてでした。小中学校では行政の仕組み、中学校では政治に参加する意味を学ぶなど、教育の現場では様々な取り組みがなされていることを知りました。選挙へ行った人へ特典をつけて投票率を上げるのも良いですが、ネットで選挙ができるようにしたら、通信機器を片時も離さない若者たちも投票する気になるのではないのでしょうか。
(小林守佑さん)
私は9月3日に初めて小諸市議会を傍聴しました。この日に質疑されていたのは、若者の投票率や政治に対する関心の低さについてでした。実際傍聴席には、私たち以外にも4〜5名のご年配の方しかおらず、若者の関心の低さが垣間見えましたが、質疑一つ一つがとても慎重で、少しの息苦しさも「政治」をしているな、と実感させていただきました。政治の一部を拝見できて、とても新鮮な気持ちでした。

印刷/三夕印刷サービス株式会社